

NIE で育てる確かな国語力

— PISA 型読解力を、拓く —

稲津 恵子 (駒沢学園女子中学校・高等学校)

1. はじめに —学校紹介—

- ① 道元禅師の「禅」を建学の精神に置く創立85年の私立女子校。附属幼稚園・短期大学・大学・大学院を併設する。
- ② 偏差値50(標準的な業者テスト)の、ごく平均的な学力集団。中学は1クラス約25名で、各学年2クラス編成。高校は1クラス約30名で、各5～6クラス編成(うち、Sコース1クラス)。

2. 我が校における NIE 活動の展開の推移

1977年に、「基礎力の充実」という校長命のもとで国語科が組織的に取り組んだのは、まず「漢字教育」であった。続く1980年に新学習指導要領を先取りし、高校3年生の選択科目に「国語表現」を導入する。

以来時代背景を取り入れたテーマを随時扱ってきたが、根本は「女性」と「環境」である。この間、NIEの動きは承知していたが、視点は世間に向いていなかった。むしろ、90分で800字の意見主張文は書けるようになったものの、それを積極的に発信し伝え合う力に乏しい生徒たちを前にして、自尊の心を築いていくという次の課題が見えていた。

3. 本校 NIE 活動の再構築の目的

本校で NIE 活動を再構築する目的は、国語力を育むことを通して生徒に「自信」を持たせることである。「自信」は基礎学力の向上によって作られ、基礎学力の向上は「確かな国語力」によって成されるものである。そして「確かな国語力」とは、言葉と格闘し、リアリティーとイマジネーションをもって自分の頭で考え行動するエネルギーを作る力である。以下、「確かな国語力」の内容を補足しながら、それを育むステップを説明する。

基本は「読む力」だ。それを独りよがりにならないためには「発表する力」を培い、「他者の読み」を受容して考えることだ。まず、他者との関わりを通して自分を捉え、言葉に置き換えること。次に、一人の人間として、一個の女性として考えること。さらに、「私には父がいて、母がいて、この日本という国に生まれた」と言える自尊の心を築くこと。それらを整理し「表現する力」は段階的にアイデンティティを確立し、自分の文脈を持った人格が育っていく。

「自分という容れ物」と「それを動かす心」を捉え、両者をつなげ他者とつながるために。また、両者が融け合い、語る母語を獲得するために。さらに、両者のバランスを作り人の有り様を考えるために「頭」はあり、思考を支える基礎は「言語」にある。こうして築いたエネルギーは、自分にとっての大切な「問い」と「答え」を求め続け、新しい自分と世界を発見し、新しい生き方を展望する言葉たちが立ち上がる。

以上が、本校の NIE で育成を目指す「確かな国語力」である。30年見続けてきた「生徒の変容」、歴代の生徒たちが教えてくれた「読み、考え、書く」ことで育つ自尊の心。この普遍的な国語教育をもって、今「NIE」を掲げる。

4. NIE 活動の概要

- ① 朝の帯学習「NIE タイム」が全校的な取り組みに広がり、各学年の実情に応じてほぼ週1回実施している。
- ② 教務内の「NIE プロジェクト（昨年発足・チーフは他教員）」が実働に入った。各学年から1名にチーフの私を加えた7名編成で、生徒の発達段階に応じた新聞活用の下支えをする。
- ③ 4階建て校舎の2カ所…2F（主に中学生のフロア）と4F（主に高校2年生フロア）に、「NIE コーナー」を設置する。運営はプロジェクト教員と、高校2年生のNIE係り。

NIE プロジェクト状況報告 2学期

a 実施方法 b 生徒の反応 ※ WS・KT・SP …オリジナルカリキュラム
 c 問題点 d 展望・その他

① 中学1年

- a 毎週土曜日の朝礼後に実施（WSの前）
- b 1学期と変わりなく、集中して行っている。
- c ・プリントを貼る冊子が大きくて、持ち運びや点検がしづらい。
・朝礼後の実施でも、次の授業がKTやSPなど、教室移動がない授業の前に行う方がよい。
- d 生徒同士、内容について意見を言い合う時間を作っていきたい。

② 中学2年

- a 毎週火曜日の朝礼後に実施
- b 集中して行っている。
- c 朝礼後の時間では足りない時が多く、何週分もためてしまう生徒がいる。
- d 新聞を読む習慣などがついたのかなど、教育的効果をアンケート実施してみたい。（まだ2年目なのでやり続けることで、効果は変わってくると思うが）高3までに、「読む」力をつけさせたい。

③ 中学3年

- a ワークシートを各教室に掲示。
- c 旧カリ体制の中ではNIE独自の時間が設けられず、物理的に完成度の高いNIEの活用は困難。（やるからにはいいものを）
- d 表現力やコミュニケーション力を高める上で知識や教養が必要である。そのために授業内でのNIEは有効である。特に義務教育完成期には活用すべきである。

④ 高校1年

- a 毎週水曜日の朝礼後に実施
- b タイムリーで、レベルや内容も適切な題材を選定していることで、生徒もしっかり取り組んでいる。
- c 社会の出来事などに幅広く関心を示すようになるようにしていくための工夫が必要。
- d 各回ごとに、生徒たちの意見をまとめて配布するなどして、良い刺激を与えているクラスもある。

⑤ 高校2年

- a LHR時に実施。教員が持ち回りでニュースを選び印刷。コメントは生徒2人組でつけあう。回収し担当が検印。返却保管。2学期は行事が多く頻度減少。
- b 教員が検印だけでなくコメントにラインを引くとしっかりやろうという気になるらしい。推薦入試に役立つと言ったら真面目にやった。きちんとやる生徒はいつでもやっている。
- c 興味関心に個人差があるので内容の選定上、実施状態に差がでるのはやむを得ない。
- d 交互にコメントを付けるなどさらなる学習を続けると時間がかかることが難点か。質問内容が選べるという。

⑥ 高校3年

- a LHR時に「LHR課題」として実施。1回に1、2編のワークシートを行い、学年で購入したレバファイルに各自保管する。
- b 実際に入試面接や小論文等に資料として利用できた者もあり、その後も情報収集の手段として比

較的積極的に取り組んでいる。

- c 坐禅等 LHR の内容によっては実施できない週がある。
- d 受験を間近にした高3の時期としては、無理もなく、受験にも即利用できる実施方法だと思われる。

5. 指導方針 — NIE を楽しんで —

私が目指すものは、「新聞を読む『ちょっと生意気な女の子』を育てること」である。「雌鶏歌えば家滅ぶ」などと言われようが、馬耳東風の生き方ができるように。そこでこんなオリジナルキャッチフレーズを掲げている。

**可愛いだけじゃ、イヤッ！ 変え時は、今です。そして、今日という日は、一生に1度しかありません。
 そうだ、新聞読もう！ 言葉は、習慣です。あー、めんど……。もう1回。読むだけ、ダイエット。
 新聞を、おじ伏せる。考える、泣ける、心に刺さる！ 女17歳、私のmy蔵量。
 学校出たら、勉強しよう、っと。 コマーシャル by NIE**

具体的な指導方針は以下の3点に置く。

- ① 国語科教育…特に古典分野への新聞の活用を、意図的・計画的に取り入れる。そこに3・11以降の時事問題を掘り下げるべく「読書」への発展を加えたオリジナルテキストを作成する。
- ② リテラシー…オリジナルテキストは、現代文・古典の授業のみならず高1、2年Sコース「総合リテラシー（無学年・2単位連続110分・オリジナルカリキュラム）」でグループ学習を通して深め、プレゼンテーションの後考えをまとめる表現学習へ発展させる。
- ③ H・R…毎日ヘッドラインニュースをたどること。その中で印象的な記事をファミリーフォーカスしミニ新聞にまとめること。さらに、「今週のニュース」をNIE係りが模造紙にまとめること。この3点を週単位で続ける。

6. 活動内容 年間テーマ「報道の力」「生命、輝け！」「自然の力」（主な授業のみ具体的な紹介）

- ① 4月21日 総合リテラシー（以下、総リ）ジャンプしてつなげよう…「ラテ欄」を読む



- ② 4月27日 ホームルーム（以下、H・R） 「東日本大震災」から学ぶ
- ③ 6月7日 学年NIEタイムにて …NIEオリジナルワークシート「祖母置き逃げた自分呪う 5月23日 読賣朝刊」
- ④ 6月16日 総リ テーマ「生命、輝け！」…「正義」とは！ 中学生に「メロス新聞」で伝えよう
- ⑤ 7月7日 H・R 「あなたたちは3・11世代…その「自覚」を作る」
- ⑥ 7月27日 H・R …NIEオリジナルワークシート「四季・窪田空穂の短歌 7月23日 読賣朝刊」
- ⑦ 7月29日 H・R 「あなたたちは3・11世代…その「自覚」を作る」 テーマ「私たちは、どう生きる…何を大切にすの？」
- ⑧ 9月22日 総リ テーマ「報道のカー風評」…オリジナルテキスト『方丈記』を追跡しよう」
- ⑨ 10月7日 H・R 「300字要約」…「地球を読む 9月25日 読賣朝刊」
- ⑩ 10月28日 学年NIEタイムにて …NIEオリジナルワークシート「NIE投書編 9月24日 読賣朝刊」
- ⑪ 10月28日 H・R 「タイトルをつけ、200字要約」…「ワールドビュー 10月16日 読賣朝刊」
- ⑫ 10月29日 H・R 「分かったことを取り上げ、Q&Aを作る」
- ⑬ 11月11日 H・R 「クリティカル・リーディング」
- ⑭ 11月24日 総リ テーマ「生命、輝け！…形を作れ」…オリジナルテキスト『形』
- ⑮ 11月30日 H・R 「TPPを知る」…「TPPなぜ参加するの？ 11月19日 日経朝刊」
- ⑯ 12月5日 H・R 「今年の10大ニュース日本編・海外編」 グループで話し合い、それぞれ10のニ

ューズに絞る。

- ⑰ 1月26日 総リ テーマ「ディベート」…オリジナルワークシート模擬裁判「雌鶏歌えば家滅ぶ、事件」

7. 結果

① 「NIEは国語力アップにつながっていると思うか」の問いに対する生徒の反応、感想

- a** います。親にもそう言われるようになりました。
- b** なっていると思う。現代文の読みで、どこに線を引いていいか分からなかったことが多かったが、少しになった。
- c** いる。書くのがとても速くなった。
- d** いる。話の中心が少し分かるようになった。が、まだそれをまとめて文章化する能力がない。
- e** 前よりも社会のニュースを気にするようになった。毎週行っているヘッドラインやファミリーフォーカスも簡潔にまとめられるようになった。
- f** いると思う。文章要約の力になっているので、受験に助かる。
- g** どこが大事なのか、何を筆者が主張したがつているのかが、少しずつ分かるようになってきた。

② 基礎学力の推移（ただし、1年次は文理に分かれていない）

学力試験結果1 ★Sコース国語偏差値(代ゼミデータ)

	高校1年6月	高校2年6月	高校2年10月
文系	55.9	64.1	65.4
理系	59.2	59.0	56.8
総合	57.8	61.2	60.5

学力試験結果2 ★Sコース国・数・英3科偏差値(代ゼミデータ)

	高校1年6月	高校2年6月	高校2年10月
文系	56.3	58.3	59.8
理系	58.7	62.5	59.9
総合	57.6	60.7	59.8

8. 考察

このデータ(学力の向上)が語るものは、「活字文化を継続的に活用することで培われてくる力」である。平均的な学力、消極的で自信のない子たちが、① 気になる言葉を調べ(語彙力) ② 事実をまとめ(要約力) ③ 「なぜ?」と考えてディスカッションし(客観性) ④ 意見を書く(表現) ことを積み重ね、「受容→思考→発信」を経て振り返る「メタ認知」によって前に踏み出す力を作った。そして、国語力の向上が基礎学力の向上につながった。

確かにこれは、Sコースに入るべき総合的な基礎学力を持った生徒の例である。しかし、彼女たちが中学入試で「その他」扱い(学力偏差値40以下)の学校群である我が校に入ってきたことは紛れもない事実だ。そして私は、彼女たちの中学3年間の国語科指導に於いて、教科書から活字文化へということを意図的に取り入れ、成長の過程を共有した。Sコースの生徒たちは、日々相当量の学習をこなしている。その一方で、私が教室に入ると模造紙に記事をまとめたりファミリーフォーカスのコメントをつけあっていたりして、自主的なNIE活動を楽しんでいる。何よりもそれを応援する保護者の支えが、共に大学見学に出かけたり弱点克服を考えたりなど親子のコミュニケーションを高め、将来を前向きに切り拓く学習活動を生み出している。そして、これは特例ではない。学校と家庭とがトライアングルを作って子供たちを導く教育の普遍的な在り方を、改めて示してくれたのである。

急速な情報化社会の中でネットを使って資料を入手することは簡単だが、それは「見る」にすぎない。自分の好みに偏る危険性へ生徒を陥れてはいけない。一方、興味の無いものを満載している新聞に目を通す過程は、それらが無意識の意識に刷り込んでくれる。書物はもちろん活字文化は、「1つのこと」を共有すれば話題にまつわる経験交換の土壌ができ、相互理解への道を歩む。そして新聞は、現代の問題意識を最もスピーディーに刺激し合える教材だ。それを生徒が実感できる環境を整え、家庭へ発信していく力を提供できる学校教育を築くこと、これが課題である。